



「2017年秋季 JNN 社長会」で 武田社長が基調報告

9月21日(木)、パレスホテル東京において「2017年秋季 JNN 社長会」が開催され、武田社長が基調報告を行いました。概要は以下の通りです。

この夏も各地で台風や豪雨の被害が相次ぎ、とりわけ7月の福岡と大分の局地的な大雨被害についてはお見舞いを申し上げます。取材へご支援をいただいた系列各局の皆さまには、大変お疲れ様だった。最近の北朝鮮の情勢を見ても、これまで以上にJNNの連携の必要性が高まっている。視聴者の皆さまに「災害や不測の事態の時はJNNを見よう」と思ってもらえるよう、さらに努力をしていきたい。10月22日に総選挙という見通しになった。残りわずか1か月ということで、いま報道局が大急ぎで選挙特番の準備を進めている。報道局に対しては、視聴者が見たいと思うような特番にしてもらいたいと指示をしたところ。JNNの皆さまのご協力をお願いしたい。

視聴率については、JNN全体で、上昇傾向が続いている。先週はTBSも、2年弱ぶりにG帯でトップとなった。2017年度上期では、TBSはこれまでのところ、全日6.1%で4位、G帯9.6%で3位、P帯9.5%で2位という状況。P帯では単独2位をキープしている。今年度上期の営業収入について。タイム収入は、安定した視聴率を背景にレギュラー番組が好調に推移したのに加え、8月の世界陸上ロンドン大会が大きな売上を記録したことで、トータルとして前年実績を上回る見込み。また、スポットも、東京地区の投下量が軟調に推移する中、TBSはシェアを拡大し前年実績を上回る見込みだ。

7月にスタートした「TBS宇宙プロジェクト」について。TBSでは5月に、人類初の月面探査レースに挑む「HAKUTO」プロジェクトを主導する株式会社「ispace」と戦略的メディアパートナー契約を締結した。今年の夏には第一弾として、放送センター1階に「HAKUTO体験ブース」を設置。月面セミナーや、月面ローバーの操縦体験など多くのお客さまにご来場いただいた。このプロジェクトをTBSだけでなくJNNの夢にしていきたい。

我々放送局を取り巻く環境が大きく変化する中、NHKが2019年に本格開始を目指すとしている「同時配信」が大きな議題となっている。民放側から批判が相次いだのが影響したのか、NHKは昨日の総務省「諸課題検討会」で、『常時同時配信は、放送の補完業務と位置付ける』と、軌道修正の姿勢も見せ始めた。ただ、『2019年度開始』の基本方針はそのまま、NHKの“前のめり”の姿勢は本質的に変わっていない。

7月に正式に発足した「PPJ＝プレミアム・プラットフォーム・ジャパン」について。インターネットでの動画視聴が広がる中、日本経済新聞社・テレビ東京HD・WOWOW・電通・博報堂DYメディアパートナーズと共同で「PPJ」を設立し、配信プラットフォームビジネスに本格的に参入することを決断した。

以上